

件名	第3期奄美市子ども・子育て支援事業計画に関する パブリックコメント
意見募集 期間	令和7年2月3日（月曜日）～令和7年2月25日（金曜日）
上記の通りパブリックコメントを実施したところ、2名の方から貴重なご意見をお寄せいただき、以下の通り分類しました。 ①計画書における記載の方法等についてのご意見 ②本市の施策や事業に対するご意見やご要望	

①計画書における記載方法等についてのご意見を、8件いただきました。
このご意見に対する計画への反映等は次のとおりといたします。

①計画書における記載方法等に対するご意見	ご意見に対する対応
P13:世帯状況について。子どものいる世帯は奄美市全世帯に対してどのくらいなのか、割合を掲載することは可能か。	世帯数割合を追記しました。
P17:母親の年齢別出産数について。「国や県と比べて、20歳代後半での出産比率が小さく、それ以外の年代の出産比率が大きい」と表現するのはどうか	子ども・子育て会議において確認し、現行の記載のままとします。
P19:認可保育所等の定員数と共に充足率も掲載できるか。	参考データとしてそれぞれ基準日時点の利用児童数を追記しました。
P24:放課後児童クラブの定員数と共に、年間利用人数等のデータを掲載してはどうか。	
P29:児童虐待の相談件数について。全国的には右肩上がり推移しており、その内容は①心理的虐待②身体的虐待③ネグレクト④性的虐待の順だが、奄美市では相談件数が増減しており、最も多いのがネグレクトとなっている。この違いについて、考えられる内容を付記して説明してはどうか（あるいは、虐待に対するSOSを見逃しているおそれはないか）。	詳細な分析が必要なため、本計画での記載はしないことといたします。

P30:「中1ギャップ」の表現があるが、いわゆる「小1の壁」への対応も追記することはできるか。	「小1の壁」に対応する事業として「放課後児童クラブ」や「ファミリー・サポート・センター」事業などを記載しております。
P66:WLBの推進について。母親の育児休業取得率が少ない（全国平均が8割台）ようだが、その理由はなぜか。産休明けに働かざるを得ない状況を詳しく知りたい。	「奄美市 子育てに関するアンケート調査結果報告書（令和6年3月）」P192を参照ください。
その他：本計画案を作成するにあたってニーズ調査が行われたようだが、定型の質問に対する回答が多く掲載されているように感じた。今後は、記述式の設問を用意（例：妻と夫双方が相手に対して思うこと、自宅での様子、やって欲しいこと、感謝していること等）したり、自由記述欄の内容を掲載することは可能か？	次回アンケート実施時に検討することといたします。

②本市の施策や事業に対するご意見やご要望を16件いただきました。

これらの意見につきましては、計画への反映はいたしません。貴重なご意見として承り、庁内関係課と共有いたします。

②本市の施策や事業に対するご意見やご要望
P10: 全国、県の出生数・出生率が15%程度減少しているのに対し、奄美市のそれは2%程度の減少に留まっていることは立派なことだと思う。これからも確実な支援をお願いしたい。
P035: 保育士や幼稚園教諭へ相談する人が多いことから、引き続き保育園幼稚園等で相談しやすい体制を構築すると共に、専門機関へと橋渡しする機能強化をお願いしたい。
P037: 子育て支援に関する情報の入手先について。支援サイトの活用が少ないことから、広報誌等へ資源を再分配することも検討してはどうか。

P61：延長保育事業の充実について。同事業の充実と共に、保育士の処遇改善もお願いしたい。

P77：子どもの生きる力の育成に向けた学校教育について。奄美独自の教育プランを策定し、授業を行うことを検討してほしい。例えば戦後の復帰運動からこれまで奄美がたどってきた歴史を振り返ってみたり、世界自然遺産に登録されて以降の産業と自然保護との両立だったり、南西諸島の防衛強化に伴う平和を維持するとは何か等。奄美だからこそ考えなければならないことが沢山ある。

その他：奄美に住む人々（特に女性）が、安心して子どもを産み育てたいと思える環境作りの構築に尽力していただきたい。その1つに、奄美での医療体制の充実が挙げられると思う。特にお産を取れる病院が県病院しかないと言っている。自治体としてできることは限られると思うが、各方面への要請・支援等をお願いしたい。

その他：女性の就労状況（015）、母親の就労状況（P38）、女性の育児休業取得率の低さ（P66）などから推測するに、女性（妻）が出産後早い段階から働かざるを得ない状況が想像できる。その背景には経済的事情があるのだろうが、資料からは読み取れなかった。また、ニーズ調査結果の概要（P33）から、「子どもをみてくれる方に負担をかけていることが心苦しい」と回答した割合が増えていることも、母親の孤立化を助長しないか心配なところである。「確証は持てないがデータを通して考えられること」を発信し、市民から様々な意見を募ることで、今後の施策に活かすことはできないか。

P38 母親の就労状況

周りのママ友を見ていると、夫の転勤の帯同の母については、元々は正社員等で仕事をしていたが、引っ越しに伴い退職して就労していないケースが多々ある。それは、奄美での保育所状況がわからないからである。母親の就労に状況にかかわらず入所することが出来る僻地保育所の存在を予め知っていたら、奄美に来てからもスムーズに働くことが出来たであろうケースがいくつもあった。現状としては、選択肢がない状態で幼稚園に通わせ始めるので、母親の就労タイミングがないまま、専業主婦やパート主婦でとどまるケースが多い。自衛隊員等には、予め【へき地保育所】の要件を提示してあげると母親の不安も就労意欲にも良いと思われる。【へき地保育所】をもっと告知していくべきであると思う。内地の人にとっては、へき地保育所の内容はとても魅力的。奄美の魅力になりうると思う。

P53 就学前環境の整備

認定こども園開園に伴い、小規模の僻地がなくなることに強い懸念がある。

子ども本人の特性上、大人数の園になじめないケース、大人数の園で登園渋りになった際の受け皿がなくなることが大きな不安。我が子はすでに小学生だが、少人数の施設でなければ通えなかったと思う。通う場所がない、選択肢がないことでの保護者や子供への影響も考えてみて欲しい。よって、笠利に僻地保育所は1か所だけでも残しておいて欲しい。

P59 地域における子育て支援、子供の居場所づくり

小学生の放課後問題

笠利地区においては、本当に子どもの居場所がない。地域社会として、子供に対して、学校の先生でも親でもない【ナナメの関係の大人と関われる場所】ナナメの人だからこそ育めるものがある、学校でも家でもない【第3の居場所】を早急に作る必要がある。行くか行かないかは子供が選択できるように。そこにあることが重要。児童館でもいいので作って欲しい。

P88 障害児施策の充実

笠利に療育を作って欲しい。現在は、龍郷の施設を利用している。どうしても車移動を除くと放課後に短時間の利用となる。少しでもまとまった時間利用できるように笠利に作って欲しい。また、特性のある子どもたち自身、療育に行き渋りもある。近くであれば通える可能性が高まることも知って欲しい。親は子供を療育に通わせたくても、本人が行き渋るケースが多々あり、療育の送迎スタッフが苦慮するケースもある。

P89 相談支援体制の充実

ワンストップ窓口の整備は、ぜひともお願いしたい。それだけでなく、どんな相談支援の体制があるかを市のホームページや誰でもアクセスできるような状態で明確に提示して欲しい。今は、明確に役割を提示されているものにアクセスすることできない。どの機関がどんな役割をしているのか、困りごとに応じてどこに相談をすればいいのかがわからず、そもそも子供のことで困っている親が、問い合わせ先がわからず困っている。どうにかして欲しい。他の市町村では、一覧になっているものがある。相談者がどういった情報が欲しいかを検討して、必要な情報にアクセスしやすく、繋がりやすくして欲しい。

P91 集団教育、保育が困難な子供に対する支援

未就学児については、小規模のへき地保育所が受け皿として必要なシーンが出てくると思うので、残しておいたほうが良いと思う

P30 いじめ不登校の状況

笠利地区において、（学校以外の）不登校児童と保護者に対しての受け皿が弱い。

笠利地区にも教育支援センター（出来るならば、発達支援センターが望ましい）を作るとは必須であるとする。不登校の子供が、家から出すのも大変な子供もいる中で、笠利から名瀬まで通うことが現実的でないことを考えて欲しい。

学校や家でもない「第3の居場所」、親や先生ではない「ナナメの関係にある大人」と関わる場所の存在に救われる子供や親は多いと思う。今は学校と家の2択のみ。不登校の子供が「ちょっとどこかに行けるかな」と思った時に提示できる場所を作って欲しい。

「学校に戻すための場所」というよりも、「安心していくことが出来る居場所」を作って欲しい。今は、行かせる場所がない。学校に行けない子供、ふれあい教室にも行くことが出来ない子供の居場所も考えて欲しい。もし、笠利に作るのが無理であれば、龍郷に業務委託して龍郷の施設を使わせて欲しい。龍郷にある教育支援センターの環境等は、給食有、図書館、遊具、テニスコート、調理室等使えると聞き立地や内容もとてつもなく魅力的と感じる。

また、子供のことで困りごとがあった時の相談先一覧をホームページに載せるのと共に、年度の始めに紙ベースで配布して欲しい。不登校はいつだれがなってもおかしくない。そうなった時に、保護者もわからないことが多い。そうすると、子供に対しての不適切なコミュニケーションが発生する。不登校を早期に抜け出すことが出来る子供も長引かせることになることもある。まずは、相談先があることを知り、ひとりではないことを伝える手段として、相談先一覧を配布して欲しい。